

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-3-1	事業名	都心交通環境改善事業					
担当	市民まちづくり局企画部都心まちづくり推進室都心まちづくり課 太田 211-2692							
全体計画								
事業内容	<p>・「人と環境を重視した新しい時代の都心交通の創出」、「都心の活性化に寄与する交通施策の推進」を計画目標として、都心部における快適な歩行環境と円滑な自動車交通を共に実現し、魅力的で活力ある都心のまちづくりを交通面から支えるものである。</p> <p>・これまで社会実験等を通じて検証を進めてきた荷さばき対策、タクシー対策、観光バス対策などの交通施策が運輸事業者や地元商店街との連携により着実に実現化してきており、これらの交通施策について、再開発などに関わる土地利用に合わせた対策を推進する。</p> <p>・さらに、札幌駅周辺や創世1.1.1区など、都心部の民間再開発の動きが活発化しており、北海道新幹線の札幌延伸やバスターミナルの再整備など、都心で進められる新たなプロジェクトについて、パーソントリップ調査(平成18~21)の結果などをもとに、施策の効果・影響について検討を行う。</p>			<年度別の事業内容>				
				19年度	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー・荷さばき・観光バス対策推進調査 ・都心交通モニタリング調査 ・交通行動の意識転換に関する調査 ・環境的に持続可能な交通モデル事業調査 			
事業内容	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)				
	<p>平成19年度は、都心部の交通課題解消に向けて、タクシードライバーに対してアイドリングストップに関する調査と啓発を行ったほか、荷さばき、観光バス対策を推進するため、各事業者に対して行った意識調査を通じて、交通事業者に対する働きかけの浸透を図った。</p> <p>また、計画の進捗状況を経年で測るための「都心交通モニタリング調査」、交通対策の環境面での効果を把握するための「環境的に持続可能な交通モデル事業調査」を併せて実施した。</p> <p>都心部交通対策推進策検討調査 都心交通モニタリング調査 環境行動計画(EST)モデル事業推進調査 JR札幌駅周辺再整備に係る勉強会コーディネート等業務</p>			<p>平成20年度は、平成16年度に策定され、これまで推進してきた、「さっぽろ都心交通計画」の各施策について、これまでの事業の成果をまとめ、現在の進捗状況の整理を行う。</p> <p>また、札幌駅周辺の再開発に合わせて、交通課題の抽出やこれに対応する交通対策の検討を行うなど、都心部の再開発の動向を見据え、現在進行している各種プロジェクトに合わせた交通対策の検討を行う。</p> <p>「さっぽろ都心交通計画」に関する事業のまとめと今後の方向性の整理(タクシー・荷さばき・観光バス対策の検討) 札幌駅周辺の交通課題の抽出と交通対策の検討</p>				
達成目標の状況								
項目			18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
創世1.1.1区・札幌駅前周辺地区交通環境改善計画の策定			-	検討	検討	対策策定	対策策定	事業化調整
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)								
<p>市民との連携、市民参加 都心部の交通対策については、これまで、各種の社会実験や検討を官民協働のもと行ってきている。具体的には、札幌シャワー通りにおいて地元商店街が中心となり、歩行空間の拡幅や荷さばきの利用ルール等を自主的に策定し、実用化に結びつくなど、官民の協働及び、市民が主体となった取組みがなされている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] 社会実験などを通じて、地元事業者、事業者に対し、都心部の交通課題とその具体的な対策案を提示している。 [その他の協力]</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり モニタリング調査等で把握した都心部の交通課題を、パンフレット等を作成し配布することで、市民に分かりやすく提示し、社会実験などを官民協働で行うことによって、具体的な対策案を提示してきた。これまでの継続的な取り組みによって、行政、事業者、市民の協働による課題解消に向けた取組みが進展してきている。</p>								

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-3-1		事業名	都心交通環境改善事業		
評価(成果)				課題		
<p>都心部における交通課題の解消は、行政のみによる施策展開では困難であり、事業者や市民の積極的な参加が必須である。</p> <p>平成19年度は、大通地区等での調査による定量データの把握と、タクシー、荷さばき、観光バスの事業者に対し意識調査や啓発を行った。</p> <p>これらの取組みを通じて、各交通事業者に、アイドリングストップや荷さばき時間の短縮などの必要性や、具体的な取組手法への理解が広がった。</p> <p>また、環境行動計画モデル事業調査の中で、各交通対策を行ったことによるCO2削減効果を、今後の目指すべき1つの指標としてまとめることができた。</p>				<p>都心部では、タクシーの客待ち路上駐車、荷さばき車両や観光バスの路上駐車、違法駐輪など、円滑な交通を阻害し、美しい街並みを損ねる要因が未だ数多く存在する。</p> <p>これらの都心部の交通課題を交通面のみから解消することは難しいことから、都心部の再開発や、現在進行している各種プロジェクトといった、まちづくりと一体となった、より具体的かつ実効性のある交通対策を検討し、確立する必要がある。</p> <p>さらに、これらの取組みの必要性をより多くの関係主体に認識してもらおうとともに、その役割分担を明確にしながら、官民の協働によって、魅力ある都心交通環境の実現に取組む必要がある。</p>		
今後の事業の予定・方向						
<p>北海道新幹線の札幌延伸や、市電の札幌駅への接続、バスターミナルの再整備といった、札幌駅周辺の再開発の動きに合わせて、札幌駅周辺の交通課題の抽出と、これに対応する対策の検討を行い、都心交通環境改善対策の策定に向け、官民協働の取組みを実践していく。また、創世1.1.1区周辺の再開発に合わせた交通対策についても検討を進める。</p> <p>さらには、都心部の各地区で展開されている民間主体のまちづくりの動きと連動させつつ、各地区の特性に応じた交通課題の解消、魅力ある歩行空間の創出を交通面から支えるための対策について検討を行っていく。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	14,000	24,000	24,000	8,000	70,000
	財源	4,000	8,000	8,000	0	20,000
	国内	0	0	0	0	0
	内	0	0	0	0	0
	訳	10,000	16,000	16,000	8,000	50,000
予算	事業費	14,000	14,000	-	-	28,000
	財源	4,000	6,000			10,000
	国内	0	0			0
	内	0	0			0
	訳	10,000	8,000			18,000
実績	事業費	13,384	-	-	-	13,384
	財源	4,000				4,000
	国内	0				0
	内	0				0
	訳	9,384				9,384
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				39.1%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
[20年度]						